そよかぜ

毎日新聞西部社会事業団だより

第94号　2016年３月

発行所　〒802－8651
北九州市小倉北区紺屋町13-1
(公財)毎日新聞西部社会事業団
発行人　瀬尾　健悟
電話 093-551-6675 ファクス 093-541-8009
E-mail:s-maiswf@cotton.ocn.ne.jp
郵便振替　01770-2-40213
ＵＲＬ　http://www.mainichi.co.jp/seibu_shakaijigyo/

歳末チャリティー即売会
多くのファンが来場

全国の一流作家の皆さんのご理解とご協力をいただき、毎年末に実施している毎日新聞西部社会事業団恒例の歳末チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」は、昨年12月、北九州（小倉）、山口、福岡の３会場で順次開催。多くの美術ファンが会場を訪れた。しかし、３会場の売り上げ合計は１１００万円台にとどまり、08年度以降の右肩下がり傾向が続いている。

売り上げは伸びず

即売展には、全国の洋画家、日本画家、書家、名刹の高僧、陶芸家、工芸家、芸能人ら約８００人から約１３５０点の作品が寄せられた。これらの作品を３会場に振り分け、前年度の寄贈作品と合わせて展示・即売。いずれの会場でも、特に著名な作家から寄せられた作品約１００点は入札方式とし、２日目に集計して落札者を決めた。

会期と会場は、12月5、6日が北九州展（北九州市小倉北区の毎日会館）▽12、13日が山口展（山口市の山口井筒屋）▽19、20日が福岡展（福岡市中央区のアクロス福岡）。より多くの皆さんに足を運んでもらおうと、今年度も事前のＰＲに重点を置いた。チラシの作成・配布、毎日新聞紙上での特集記事掲載、各会場展直前の地方版社告、テレビ局によるニュース放映、事業団ホームページでの作品紹介などを実施。師走らしくない暖かさで、天候にも恵まれたが、客足はなかなか伸びず、３会場の売り上げ合計も前年度を１００万円下回る厳しい結果となった。

お気に入りの作品を求める来場者（15年12月、北九州会場で）

歳末展で残った作品は、3月5日に北九州市の毎日会館5階の特設会場で開いた年度末展で、さらに求めやすくして展示、即売した。

即売展の売上から諸経費を差し引いた益金は、児童福祉や障害者福祉、高齢者福祉、交通遺児支援、ホームレス自立支援などの活動に取り組む団体などへの助成金など、さまざまな福祉事業に活用する。

全国ふうせんバレー大会
48チームが熱戦

障害者と健常者が一緒になってゴム風船でバレーボールを楽しむ「第26回全国ふうせんバレーボール大会」（日本ふうせんバレーボール協会主催、毎日新聞西部社会事業団など後援）が、15年11月23日、北九州市八幡東区の市立総合体育館で開かれ県内外から参加した48チーム約５００人が力を競った＝**写真**。

競技は、障害者と健常者のチーム６人が全員ボールに触れてから10回以内に相手コートへ返す。ボールは直径約40センチのゴム風船で、目が不自由な人でも参加できるように中には鈴が入っている。

車いすで参加した地元勢の筒井富美代さん（74）＝若松区＝は「週２回くらい練習しています。健常者のみなさんもみんな優しくて、一緒に楽しめるのでうれしいです」と笑顔で話していた。

■編集後記■　年末に開催した歳末チャリティー「全国寄贈書画・陶工芸品即売展」では北九州、山口、福岡の３会場で多くの皆さんに作品をお買い上げいただきました。歳末助け合い「愛の義援金」でも、たくさんの方から浄財を頂戴しました。いずれも、当事業団が予定している社会福祉事業の資金として活用させていただきます。ご協力に改めてお礼を申し上げます。

節目の年を祝う

成人や還暦など人生の節目を迎えた知的障害のある人たちを祝う「出発（たびだち）を励ます集い」＝北九州市手をつなぐ育成会主催、毎日新聞西部社会事業団後援＝が１月30日、北九州市戸畑区のウェルとばたであり、家族も含め約２００人が参加した＝**写真**。

毎年この時期に開かれており、成人のほか、今春特別支援学校に入学、卒業する予定の子供たち、還暦を迎えた人に加え、今回から不惑の40歳になった人も出席した。

対象者を代表して山口大智さん（20）が「自分勝手をせず優しい大人になりたい」と決意表明した後、当事業団が贈った記念品の目覚まし時計を一人一人受け取った。

2015歳末助け合い「愛の義援金」
募金総額は前年並み

毎日新聞社と毎日新聞西部社会事業団が協力をお願いした２０１５年度の歳末助け合い募金「愛の義援金」の結果がまとまった。指定募金の海外救援金、小児がん征圧募金、東日本大震災救援金、毎日希望奨学金、関東・東北豪雨災害救援金を含めた募金総額は６９１件、６８８万２３５０円となり、前年度に比べると約10万円の減だった。一般募金は、児童養護施設や母子施設、障害児施設で生活している子どもたちへの新入学・卒業プレゼントや福祉諸団体への助成金として活用、指定募金は関係機関や団体に贈る。

「愛の義援金」は、歳末の約１カ月間を募集期間と定め、これまでに何らかの募金をいただいた方や歳末チャリティー展でご購入いただいた方々などにチラシや振込用紙などを郵送しており、15年度は約５７００人にご協力を呼び掛けた。

毎日新聞紙上に社告が掲載された11月末ごろから募金が集まり始め、12月に入ると件数も増え、学校での募金活動で集まった浄財を毎日新聞の支局に寄託するケースもあった。

集まった浄財を寄託した山口県立光高校生徒会の皆さん

一方で、協力を呼び掛けた郵送物が「宛所不明」で返送されてくることも多く、加えて物価上昇、年金支給額の引き下げなど生活環境の変化もあって、最終的に、総件数は６９１件となり前年度比１００件減少、募金総額も６８８万２３５０円で前年度より10万３６５９円の減少となった。

このうち、一般募金（社会福祉基金）は４２６件あり、対前年比１０６件減だったが、1件につき高額の寄付も目立ち、金額は約４４２万円と約23万円増えた。小児がん征圧募金は、件数が15件増えたものの、金額は微減▽海外救援金は件数、金額とも前年を下回った。

また、この3月で丸5年となる東日本大震災の関連募金は、毎日希望奨学金は件数、金額とも横ばい▽救援金が件数、金額いずれも減少した。

15年度歳末助け合い募金集計

	15年度		14年度		前年度比	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
一般募金	426	4,420,472	532	4,186,836	−106	233,636
海外救援金	58	344,078	62	463,589	−4	−119,511
小児がん	76	497,069	61	520,267	15	−23,198
小計	560	5,261,619	655	5,170,692	−95	90,927
東日本大震災救援金	15	296,100	19	359,333	−4	−63,233
希望奨学金	114	1,304,631	110	1,311,961	4	−7,330
関東・東北豪雨災害救援金	2	20,000	0	0	2	20,000
8月豪雨災害救援金	0	0	7	144,023	−7	−144,023
合計	691	6,882,350	791	6,986,009	−100	−103,659

★新入学・卒業祝い品プレゼント★
62施設の562人に

当事業団では、歳末募金を原資に児童養護施設や母子施設の子どもたちへの新入学・卒業祝い品プレゼント事業を長年行ってきた。今年度の事業実施対象地域は、福岡、山口両県に絞った14年度路線を踏襲した。両県の68施設を対象に、今春小学校に入学予定の子どもや中学・高校を卒業予定の生徒たちについて人数などを調べてもらった。

その結果、対象者は62施設の５６２人であることが分かり、新入学児童にはランドセルやリュックサック（水筒付き）、手提げ（筆箱付き）、雨具セット、図書カードのいずれか希望の品を、中学・高校を卒業予定の子どもたちには目覚し時計か図書カードを贈った。

このほか、歳末募金の第二次配分として、山口県の共同募金会▽福岡県の交通遺児を支える会▽九州盲導犬協会▽福岡、北九州のいのちの電話▽北九州あゆみの会▽障害福祉ボランティア協会――の各団体に活動助成金を贈った。

助成額は減額した14年度規模にとどめた。

■台湾地震で救援金募る

毎日新聞社と東京・大阪・西部社会事業団は、台湾南部で２月６日発生した地震の被災者への救援金を募っている。

現地からの報道によると日本時間の６日午前４時57分、高雄市を震源とするマグニチュード6・4の地震が発生。ビルが倒れるなどして死者は40人を超し、500人以上の負傷者も出た。